

2019年6月3日

全国知事会主催：第9回持続可能な  
社会保障制度の構築に向けた会議

# サイエンスに基づく保健事業の計画 と評価

慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 教授

岡村 智教

# 全国健康保険協会の保健事業における3本柱

第2期保健事業実施計画（データヘルス計画）  
（2018年度～2023年度）

保健事業推進の3本柱  
健診・保健指導の推進  
コラボヘルス  
重症化予防

保健事業のPDCAサイクルを効果的・効率的に回していくために、データを活用する

- H20～29年度の特定健診・特定保健指導実施件数
  - 特定健診 約6700万件
  - 特定保健指導 約 130万件
- H29年度 医療費データ 約4億5千万件

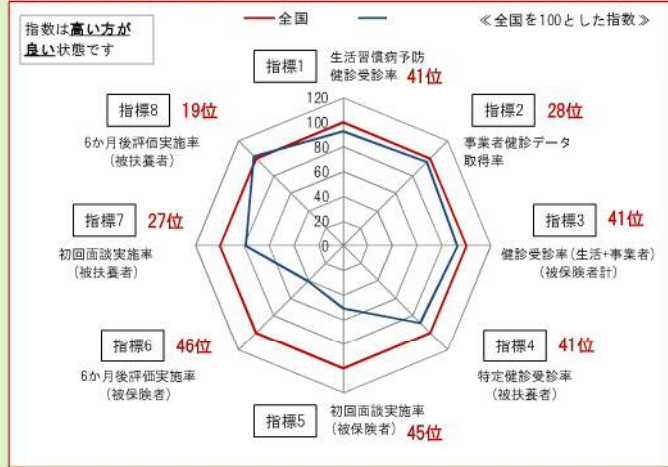
支部（都道府県）別、業種別、地域別（住所地別）、経年的な比較ができる

# ①支部別スコアリングレポート

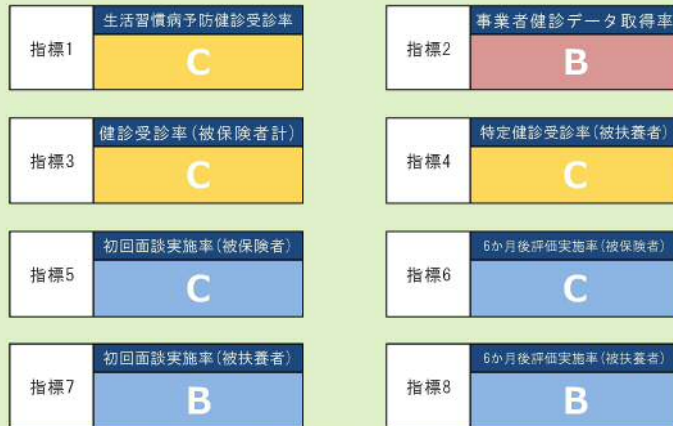
機密性2

## I 健診受診率・保健指導実施率の概要

【健診受診率・保健指導実施率(2017年度)】



※ 健診受診率・保健指導実施率が高い順に1位→47位となっています。



A:順位1位～10位、B:順位11位～37位、C:順位38位～47位

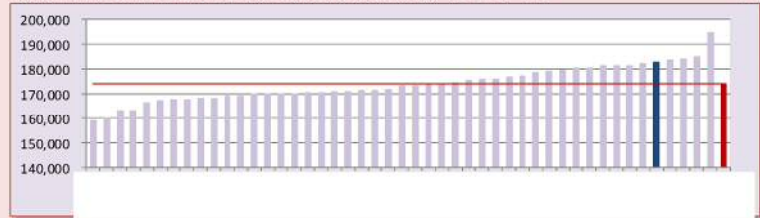
2017年度の健診受診率と特定保健指導実施率の概要は上記のとおりです。それぞれの数値の詳細及び経年変化等については、次ページ以降をご確認ください。

2

機密性2

## IV 医療費の状況

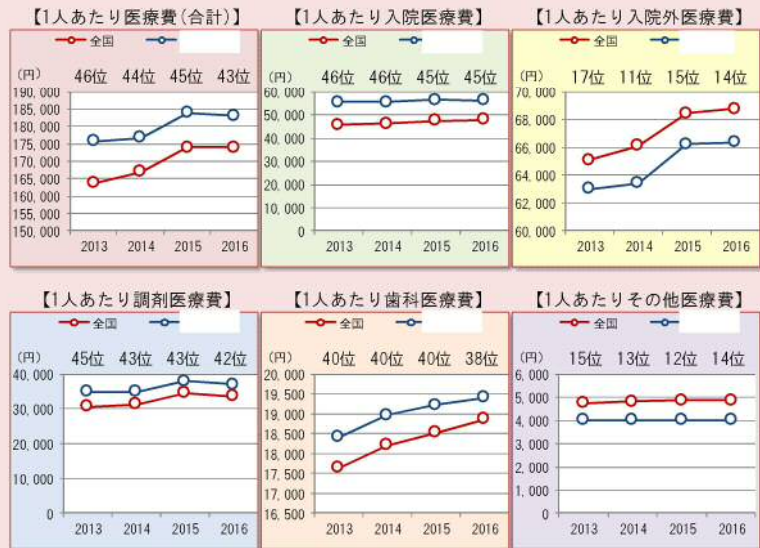
①2016年度の全支部の1人あたり医療費(合計)と全国平均 (円)



②2013年度から2016年度の自支部の各種1人あたり医療費と全国平均 (円)

	年度	合計	入院	入院外	調剤	歯科	その他
支部	2013	175,762	55,435	63,042	34,846	18,416	4,023
	2014	176,760	55,477	63,422	34,892	18,965	4,004
	2015	183,975	56,451	66,264	38,021	19,228	4,011
	2016	183,066	56,306	66,373	36,963	19,418	4,006
全国平均	2016	174,047	47,979	68,766	33,566	18,876	4,860

③2013年度から2016年度の自支部の各種1人あたり医療費と全国順位及び全国平均



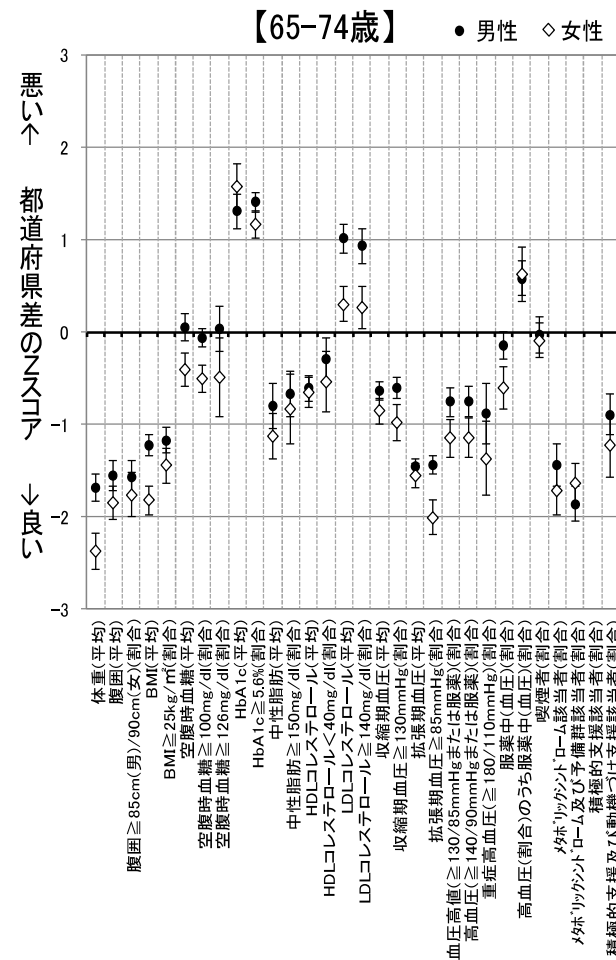
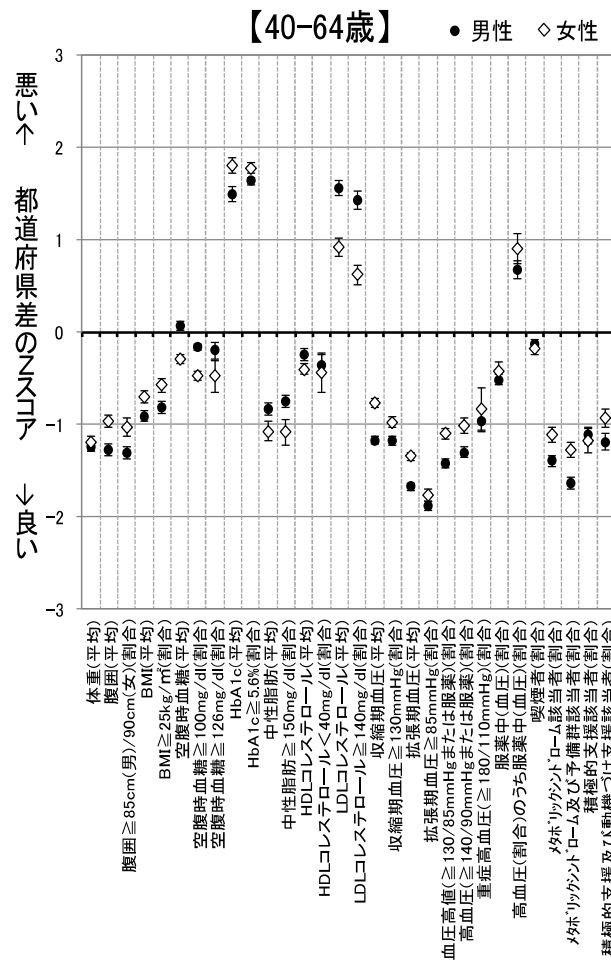
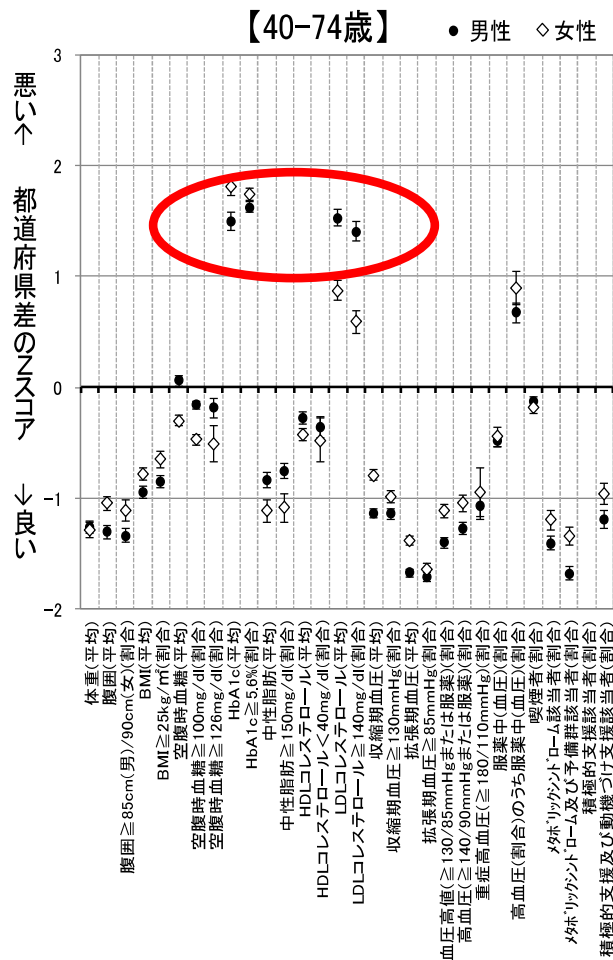
(データソース：協会けんぽの都道府県支部別医療費の状況(運営委員会公表資料)のバックデータから年齢構成を標準化した1人あたり医療費を算出)

24

3

# データ分析の「見える化」② Zスコア

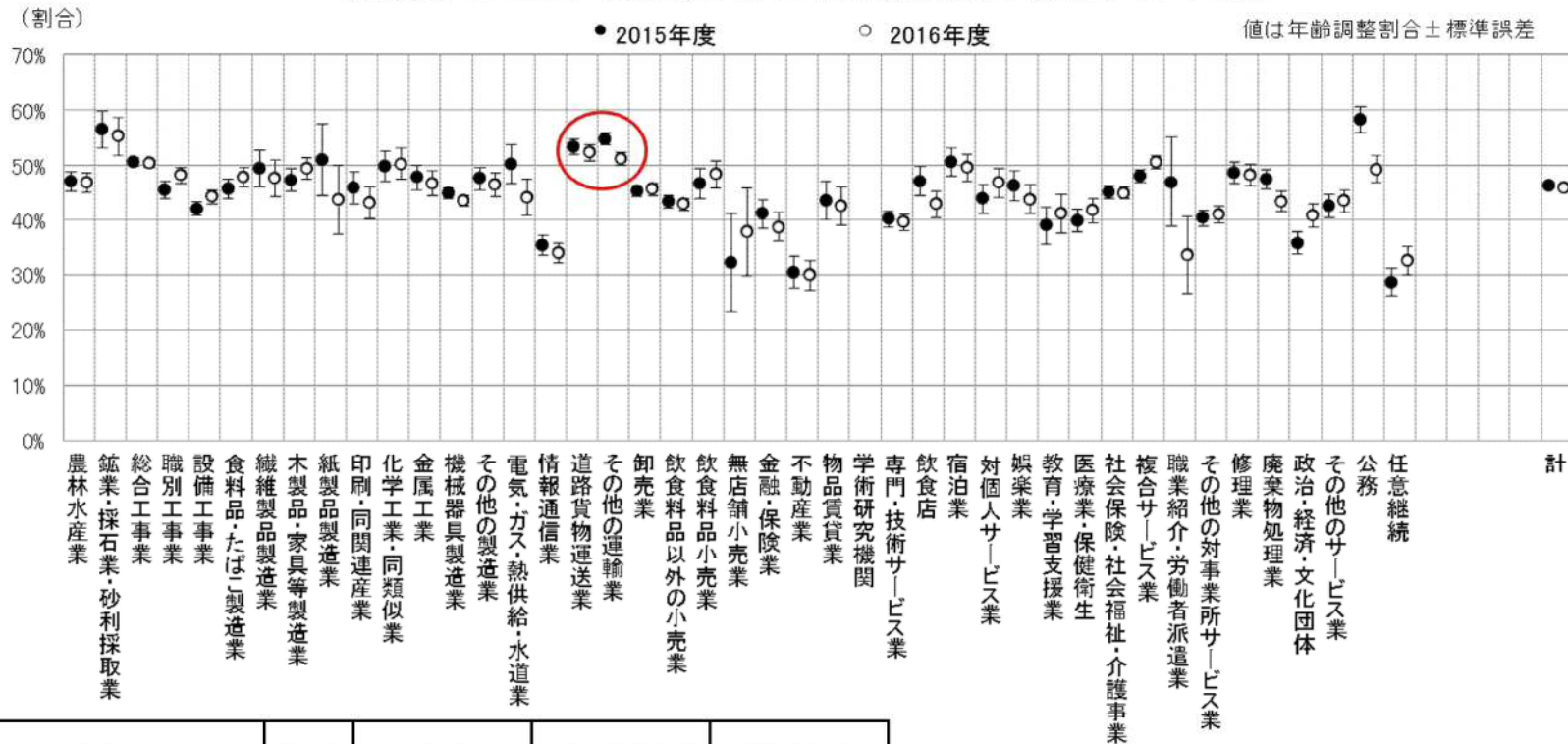
2016年度特定健診データの支部別特徴の要約



値は年齢調整値に基づく「都道府県差のZスコア」と標準誤差  
Zスコアの解釈(目安):  
 <-0.5 良い  
 ±0.5 ほぼ平均的  
 +1.0 上位6分の1  
 +2.0 ほとんどトップ  
 +3.0 突出している

(注)服薬中(血圧)(割合)は、高いことが必ずしも悪いとは限らないので解釈には注意。

収縮期血圧 $\geq 130\text{mmHg}$ の者の年齢調整割合(男性, 40-74歳)



業態	年度	総人数	年齢調整割合	標準誤差
鉱業・採石業・砂利採取業	2015	215	56.5%	3.4%
	2016	212	55.3%	3.4%
道路貨物運送業	2015	1,182	53.4%	1.5%
	2016	1,190	52.4%	1.4%
その他の運輸業	2015	1,887	54.8%	1.1%
	2016	1,914	51.2%	1.1%
公務	2015	448	58.3%	2.3%
	2016	422	49.3%	2.4%

**運輸系が2年連続で割合が高く、総人数が多い**  
(鉱・採石・砂利採取と公務も割合は高いが人数は少ない)

**割合だけでなく対象者が多い業種と連携することで、加入者全体への影響度が高まる**

協定を締結した各業種団体と連携した取り組みを行っている。各協会に加入する協会けんぽの事業所に対して、四半期毎の健康づくりに関するニュースレターの提供、血圧計等の測定機器の貸与、特定保健指導の実施等を行っている。

# データの読み方

## ◆率(割合)で見る

科学的な有効性を検証(ただし分母が何か常に注意が必要)

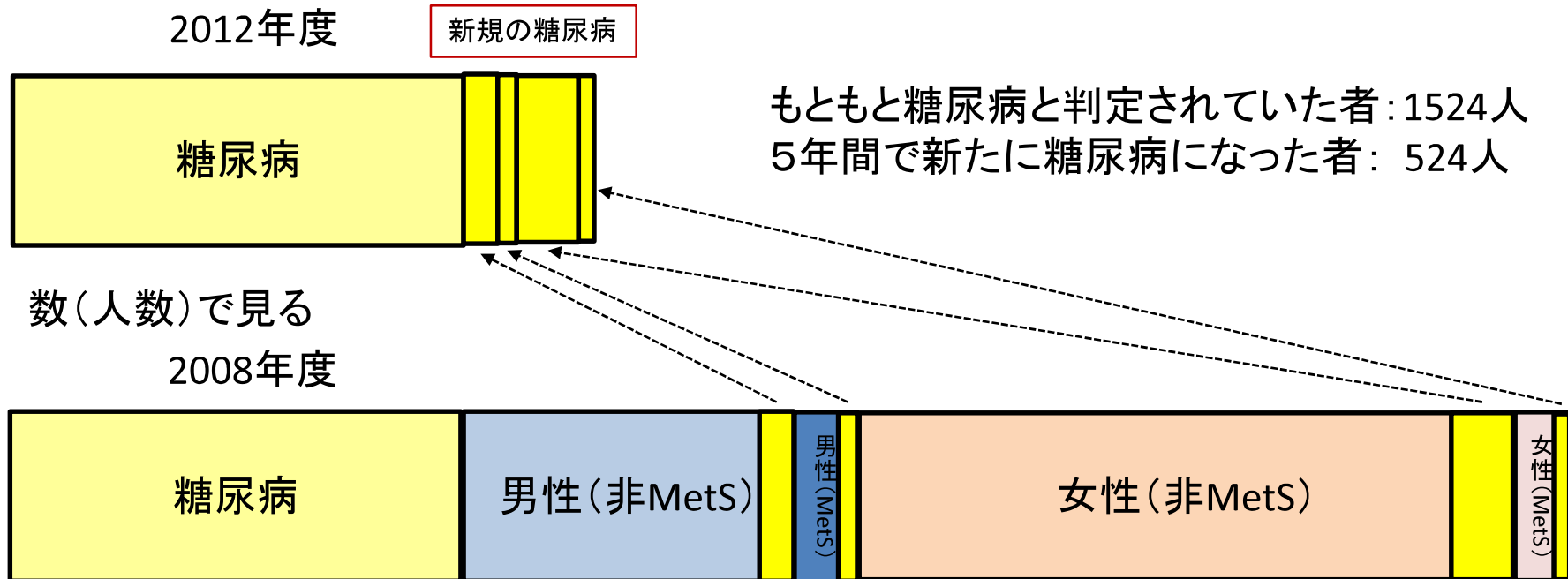
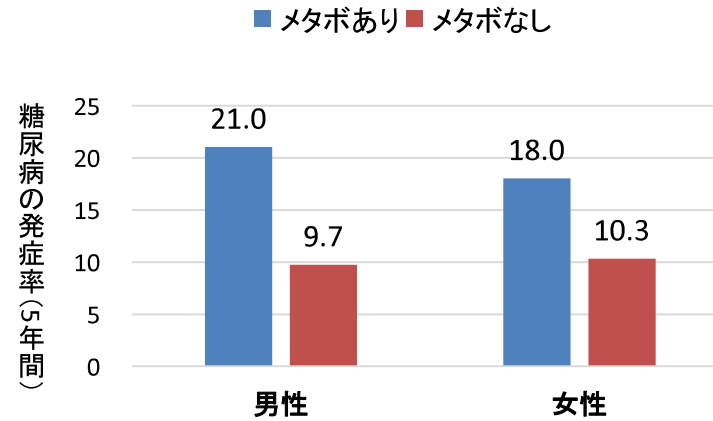
## ◆数で見る

予算やマンパワー、実現可能性の指標

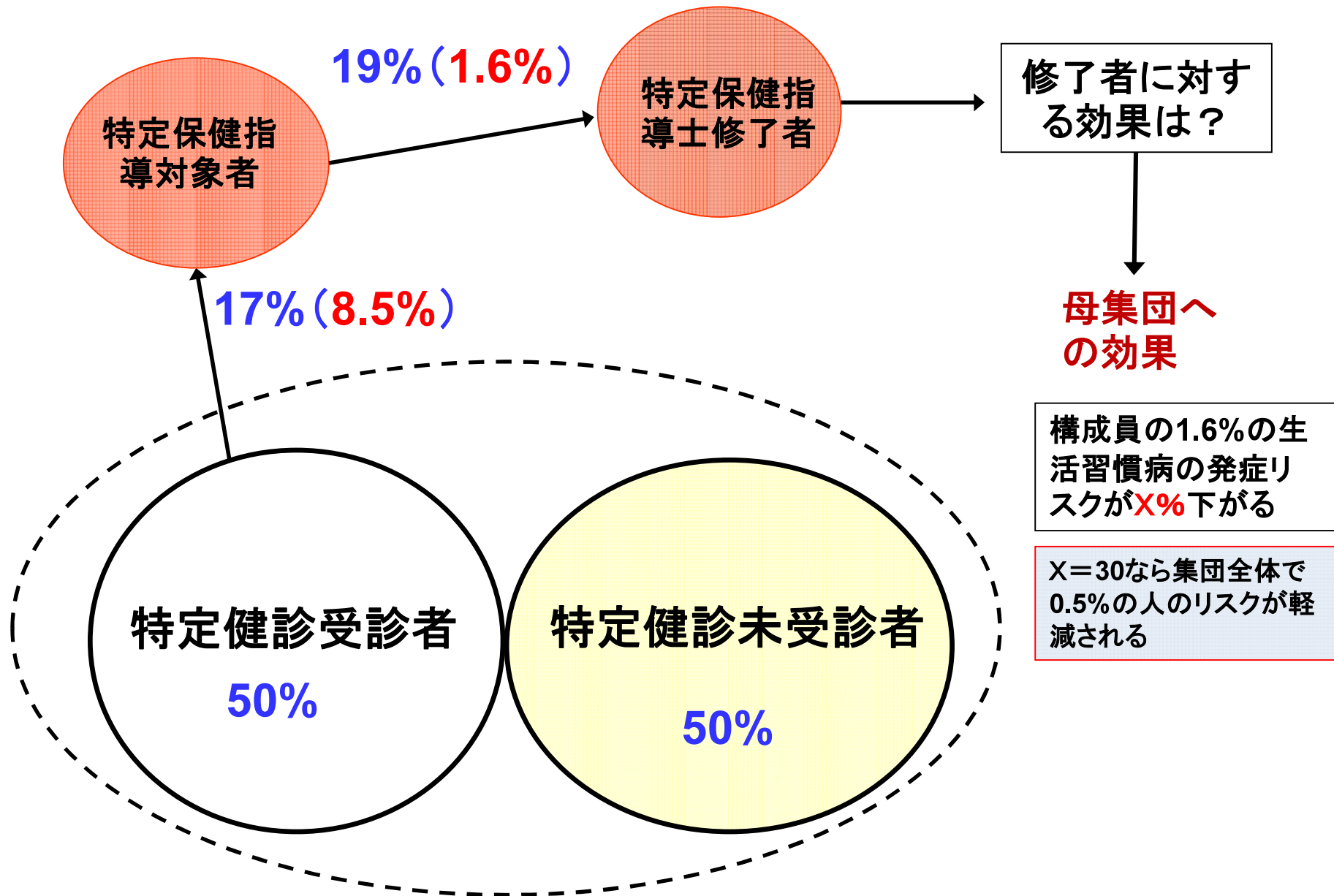
# X市国保：特定健診受診者：8325人（平均年齢 64歳）を5年間追跡

率（比）で見る

→メタボリックシンドロームがあるかない場合と比べて糖尿病の発症率は2倍になる。



# 特定健診・特定保健指導の率と数





## 特定保健指導を有効なものにするために

- ◆既に糖尿病等を発症した人が多く含まれる高齢層ではなく、発症前のより若い年齢層での新規発症予防が有効。
- ◆集団へのインパクトという視点では、個々の保健指導の効果も重要だが、結局、特定健診受診率、特定保健指導参加率という裾野の影響が大きい！
- ◆集団の意識を変えていく必要がある(ポピュレーションアプローチ！)

# 予防対策の戦略

## 大目的の達成のための基本方針

公的な立場からは、社会全体の患者数の減少が大目的となる

Strategies (戦略) としての

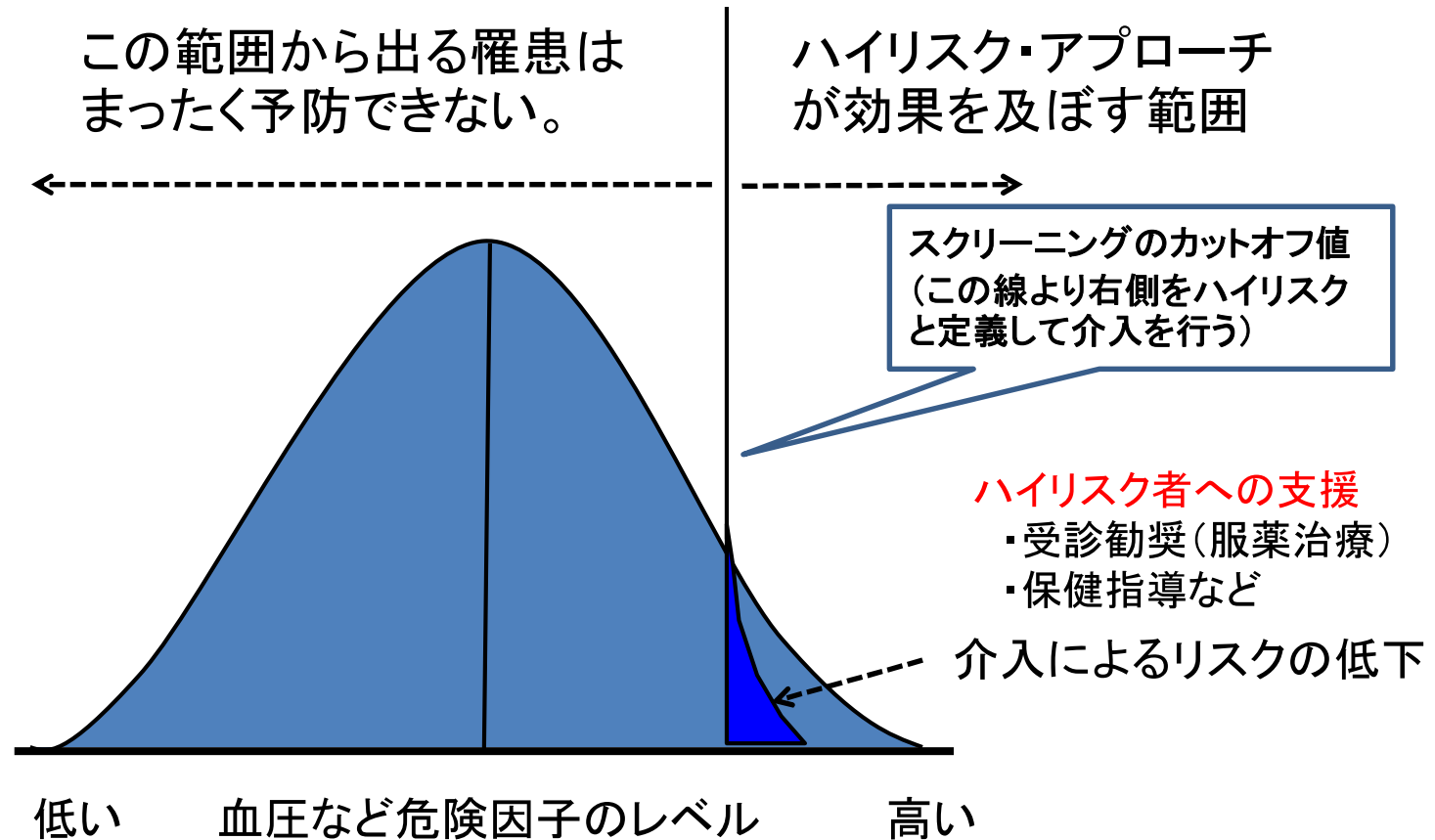
Population Approach

High-risk Approach

Rose G. Sick individuals and sick populations.  
*Int J Epidemiol*; 14: 32-8, 1985

# ハイリスク・アプローチの概念

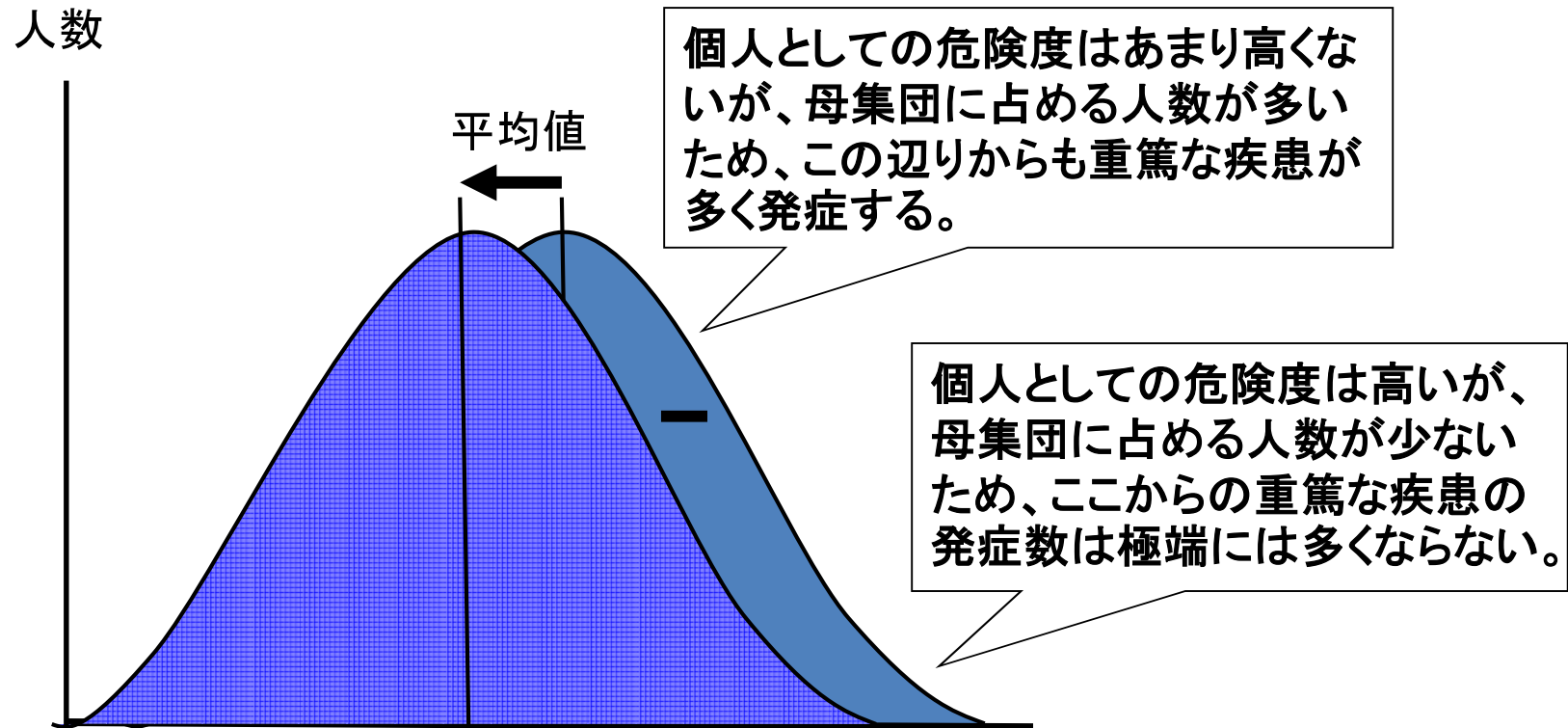
→健診・検診や臨床での治療基準等(二次予防)



低い ← 脳・心血管疾患などの重篤な疾病の発症危険度 → 高い

選ばれた人が「悟り」を開く: 上座部仏教?

# ポピュレーションアプローチ



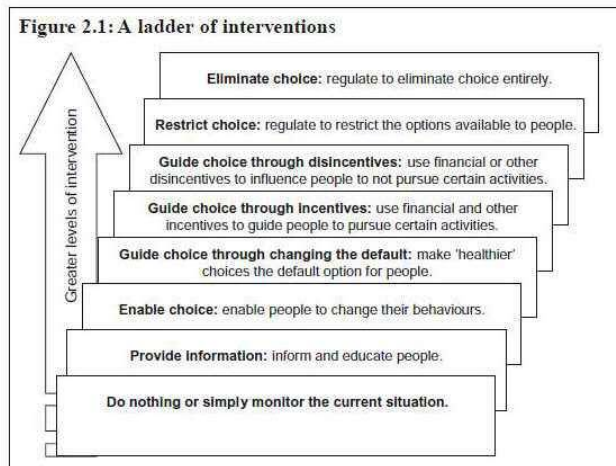
低い ← 血圧など危険因子のレベル → 高い

低い ← 脳・心血管疾患などの重篤な疾病の発症危険度 → 高い

衆生救済：大乘仏教

# ポピュレーションアプローチの段階(介入の梯子)

	内容
	まったく選択させないように規制
	選択できるオプションを制限
	逆インセンティブ(経済的またはその他の手段)により選択を誘導
	インセンティブ(経済的またはその他の手段)により選択を誘導
	健康的なオプションをデフォルトとして、選択を誘導
	行動を変えることができる選択肢を与える
	情報を提供する: 情報を提供して教育する
	何もしないまたは現状をモニタリングする



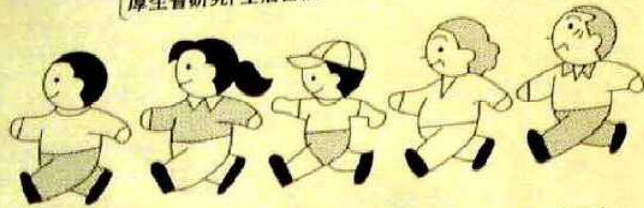
Healthy Lives, Healthy People: Our strategy for public health in England. Presented to Parliament by the Secretary of State for Health by Command of Her Majesty 30 November 2010

# 身体活動量を増やす: アクティブサポートノート

## フィットネス2000

～第二弾～

健康共催イベント  
防犯支援イベント  
厚生省研究(生活習慣病)



【実施期間】 11/1(水)～12/31(日)  
【提出締切】 1/12(金) 厳守

所属	PDIC部 特性	氏名	
実績...総計が600P以上で達成賞			
11月 301 P		12月 322 P	総計 623 P
～感想ひとこと～			
最初は がんばって やせよう と思うけど、			
つい 三日坊主になってしまってる。反省。			
健康のためにも、少しづつでも運動をして			
体力を つけようと思う。			

## 12月 歩数/アクティブ・ポイント/ボーナスポイント記録表

\*1: 発表日のアクティブ・ポイント表を参照にし、ポイント数を記入してください。  
\*2: ボーナスポイントの獲得ポイント数を記入してください。

日(曜)	1日の歩数(歩)	ポイント(P)	スポーツ種目×1時間	ポイント(P)	ボーナスポイント(P)	合計ポイント(P)
1(金)	11234	11				
2(土)	13651	13				
3(日)	10112	10			2	12
4(月)	10663	10			2	12
5(火)	11121	11			2	13
6(水)	11637	11			2	13
7(木)	13210	13			2	15
8(金)	12987	12			2	14
9(土)	8999	8			2	10
10(日)	11601	11			2	13
11(月)	10001	10			2	12
12(火)	9879	9			2	11
13(水)	10321	10			2	12
14(木)	13021	13			2	15
15(金)	11927	11			2	13
16(土)	13678	13			2	15
17(日)	11234	11			2	13
18(月)	12567	12			2	14
19(火)	12810	12			2	14
20(水)	11257	11			2	13
21(木)	10999	10			2	12
22(金)	9876	9			2	11
23(土)	9919	9			2	11
24(日)	8998	8			2	10
25(月)	11201	11			2	13
26(火)	13457	13			2	15
27(水)	11678	11			2	13
28(木)	10975	10			2	12
29(金)	10515	10			2	12
30(土)	11201	11			2	13
31(日)	11547	11			2	13
特異その2 (キャンペーン終了時) ポイント					21	19
12月合計ポイント						97

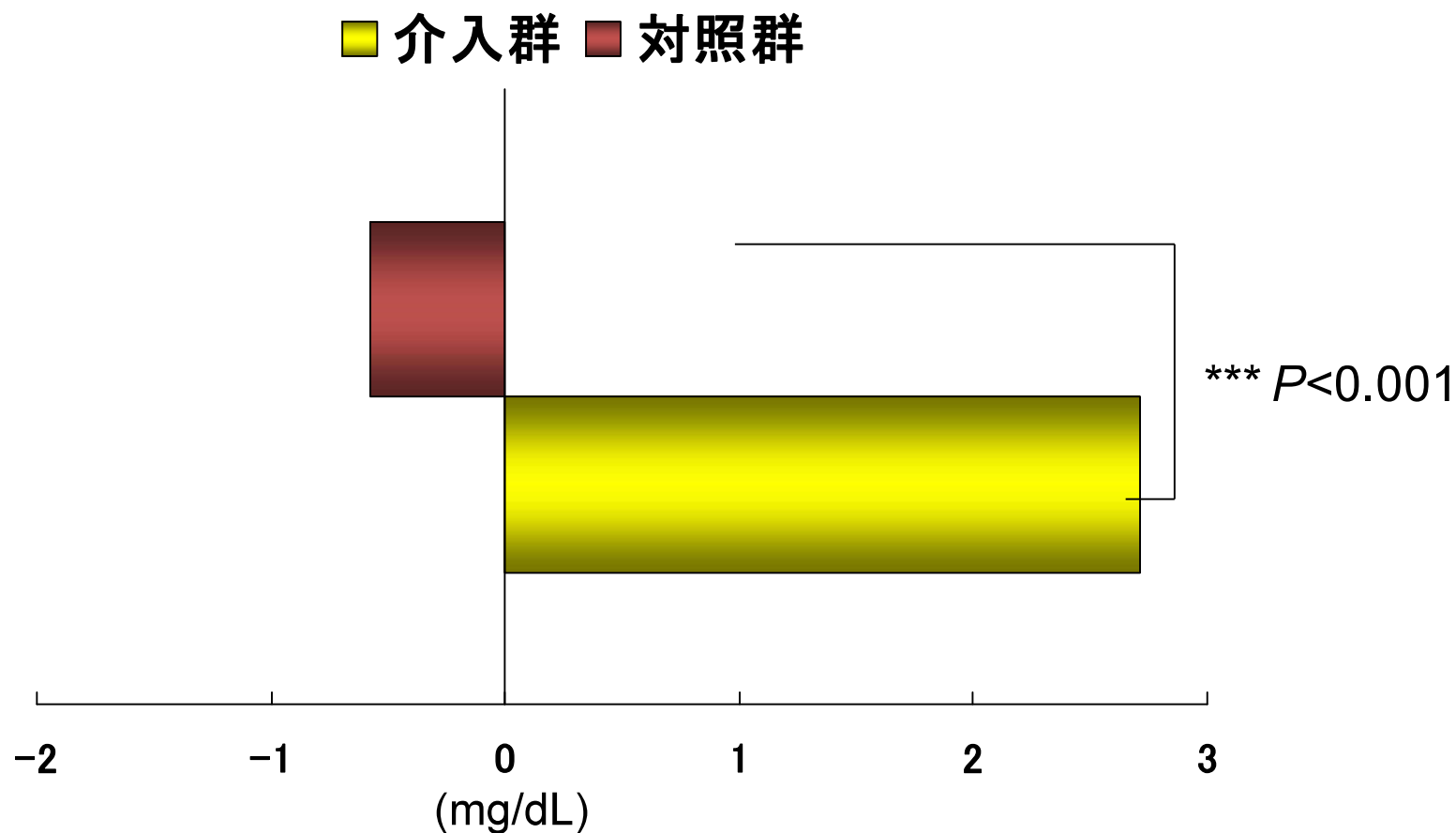
最も身体活動量の増加に有効だったのは？

駐車場を遠くにする事



写真はイメージです

# 運動キャンペーン後のHDLコレステロールの変化量 (全社員を対象とした4年間の介入効果:HIPOP-OHP研究)



性、年齢、ベースラインのHDL-C値、脂質異常症治療薬の服用および各危険因子  
(喫煙本数、飲酒量、BMI)の変化量を調整



# おわりに

- ◆現在実施している保健事業をしっかりと進める。特に働きかけるべき人数が多い裾野への対策が必要であり、引き続き特定健診受診率、特定保健指導参加率の上昇が重要な課題。
- ◆地方自治体や企業などとの連携を通じて地域全体の意識改革を進めていく必要がある(ポピュレーションアプローチとコラボヘルス)。

今後は…

- ◆地方公共団体の責務として保健事業の意義を検証する能力も含まれるため、科学的な視点で事業内容の評価や見直しができるようになるべき。